松江小だより

令和６年４月３０日
5月号
江戸川区立松江小学校

～「あなたもわたしも大切な一人」すべての命の尊さを伝えること～

校長　大須賀　慎一

「おはようございます」。登校時、子供たちが元気にあいさつをしています。松江小学校は、３つの門から登校していますので、三方向から登校してくる児童が集うあたりに立っていると、さわやかなあいさつの声が聞こえてきてうれしくなります。その後、各教室へ周り、子供たちにあいさつをすると、それぞれの学年から大きなあいさつを返してくれることや、少しずつ子供たちとコミュニケーションを図ることができうれしく思っています。あいさつは、人と人との関わりのきっかけになります。引き続き、ご家庭や地域におきましても、あいさつの励行をよろしくお願いします。

本校では、「あなたもわたしも大切な一人」として、子供たちはもちろんすべての「命」が大切であることを学校全体で取り組んでいます。４月の避難訓練では、「命を守る大切な訓練です。ニコニコの笑顔はいりません。怖い顔で訓練に臨んでください。」と子供たちに話をしました。今年に入り、震度５以上の地震が多く起きています。日頃の備えはもちろんですが、有事の際は、命を守る行動をしなければなりません。各学級において、避難訓練の意義を子供たちに話をして訓練を実施しました。これからの訓練においても「怖い顔」をして真剣に臨んでほしいと思います。

これまでに何度か、東日本大震災の被災地を訪問する機会を得て、震災で被災した様子をたくさん見てきました。また、被災された方々、復興に取り組んでいる方々とたくさんの話をさせていただきました。岩手県釜石市では、津波から避難する疑似体験を行いました。宮城県南三陸町の戸倉小学校では、避難における学校の判断の大切さを学びました。そして、宮城県の大川小学校では、「命の尊さ」を考えさせられました。

大川小学校は、津波により児童・教職員８４名が被害に遭いました。後に、訴訟が起こされ２０１９年事前防災の重要性と組織的な過失を認めた控訴審判決がされました。私自身も、報道等により控訴審判決は知っていましたが、裁判という事柄にどこか複雑な思いでおりました。様々な報道等により、大川小学校の悲劇ばかりがクローズアップされてしまったことは否めず、正直言いまして訪問するまでの浅薄な知識に恥ずかしい思いをしました。

大川小学校へ行くと、当時、小学校６年生の次女を津波で亡くされた佐藤敏郎さんから「子供たちの声が聞こえますか。」と問われました。正直言って、「子供たちの声が聞こえるとは、どういうことだろう。」と思いました。その後、佐藤さんと一緒にあの日、あの時、大川小学校でどんなことが起きていたのか、疑似体験をしました。校庭に集まった子供たちが、津波大警報のサイレンを聞いてざわついていたこと、咄嗟に逃げようとした子供を止めたこと、誰が何を指示するのか混乱していたこと、そして、津波から逃れるために全員で逃げた方向が、津波に向かっていたこと・・・。佐藤さんから「子供たちは、怖かったでしょう。先生たちも怖かったでしょう。先生たちも必死で子供たちの命を守ろうとしてくれました。最後まで子供たちの命を守るために全力を尽くしてくれました。けれど、８４名の命を救うことができませんでした。そのことを考えて、当時の子供たちと同じように逃げた道を走ってください。」と言われ走りました。その時、子供たちの声が聞こえてきました。怖かったことでしょう、死にたくなかったでしょう。涙が止まりませんでした。「命」の尊さを、教え諭すことは学校の使命であります。本校では、「すべての命の尊さ」を学ぶことを大切に取り組んでまいります。機会がありましたら、東北被災地で学んだ数々の話を保護者・地域の皆様にもお伝えできればと思っております。